

写真に見る

1115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一



①若宮稲荷神社境内の石垣（長崎外国語大所蔵）

□ 26 □

若宮稲荷神社

写真①は明治30年ごろの若宮稲荷神社（長崎市伊良林町2丁目10の2）境内の石垣である。「古いお宮を若宮」と長崎七不思議で囃され、伝統芸能「竹ん芸」で有名なこの神社の起源は、延宝元（1673）年までさかのぼる。

出来大工町の之名若杉喜三大は、このとき邸内に祭る楠木正成の守護神である若宮稲荷五社大明神を、清浄な巨岩がある伊良林次石に奉遷した。江戸時代には次石神社または伊良林神社、若宮神社とも呼ばれ、伊良林村の鎮守となった。

元文元（1736）年、この社に参拝して靈験を得た長崎奉行細井因幡守は、

お札にそれまで禅林寺からの参道を川沿いに變更し、若宮通りに通じる新道を開削して神殿を改築した。神社は幕末には在留唐人から寄付銀を受領していた。

長崎を往来した坂本龍馬ら志士たちは、勤皇稲荷と呼ばれたこの神社に参拝し、維新後は長崎裁判所総督澤宣嘉が伊良林稲荷神社と改称し、神主の衣装に特別な計らいをした。

社地は狭く参拝に不便なため、明治14（1881）年と16年に雑木林を切り開き、崖を掘削して拡張し、写真のような石垣を築いた。

竹ん芸は文政3（1820）年から八百屋町のおくちの奉納踊りであった



②若宮稲荷神社の参道入り口（長崎外国語大所蔵）

865）年奉納の右の大きな石灯籠は今も健在である。写真には写っていないが手前には現在、明治33（1900）年建造の鳥居が立つ。とすれば写真師竹下佳行による撮影は30年ごろであろう。

（長崎外国語大校長）

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ（<http://www.nagasaki-igo.ac.jp/recnas/newspaper/>）で見ることが出来ます。

拡張続いた伊良林の鎮守

が、明治29（1896）年から若宮稲荷の境内で10月14、15日の秋の例大祭で奉納されるようになった。中道の入り口である。ここから国の羅漢踊りが起源とされるこの曲芸は、若宮神社でく坂道には、大小朱塗りのはご神徳を喜ぶ白狐を表木や石の鳥居が連続する。している。囃し方の楽器に奥の石の鳥居は道が開削さ合わせて男狐と女狐、子狐れた当時のもの。元治2（1



長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード

随時掲載します